

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



写真:エミュ、エミュキーマカレー、獣侵入防止柵を開放し大豆を作付している山間地の田

佐賀県基山町 が応援するふるさと名物

エミュー：中山間地域の耕作放棄地
解消と所得向上を目指して

- ◎エミュー肉を使った商品群
- ◎エミューオイルを使った商品群



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

佐賀県基山町

(きやまちょう)



地域の
プロフィール



基山町イメージキャラクター

きやまん

基山町は、佐賀県の東端に位置し、福岡県（筑紫野市・小郡市）、鳥栖市に接する面積22.15平方キロメートルの小さな町です。古くから古代官道や長崎街道など主要道路が町域を通り、現在でも国道3号線、JR鹿児島本線、九州自動車道が縦走するなど交通の要衝地として発展してきました。古代から地形的な条件にも恵まれているため、丘陵部や平野部に人々が生活を営んでいたことを示す数多くの遺跡が残されています。

天智2年（663年）の白村江の戦いに敗れた倭国（当時の日本）は、博多湾から大宰府への敵の進軍を防ぐため、天智4年に基山（きざん）に日本最古の朝鮮式の山城である「基肄（きい）城」を築きました。基肄城は、平成27年に築造1350年を迎えました。歴史的にも貴重な文化遺産を多くの人に知ってもらい、さらに活用するための絶好の機会と捉え「基肄城築造1350年事業」として第5回古代山城サミット基山大会、草守基肄（草スキー）大会、麵フェスタ等、基山町一体となって取り組んでいます。

基山町は、総土地面積の38%が山林で、耕地は14%です。その耕地も基盤整備は十分でなく、多くの耕地が中山間地域の耕作条件が悪い場所にあります。農家の高齢化と後継者不足とともに、耕作放棄地の拡大や鳥獣による農作物の被害対策が喫緊の課題となっています。

基山町では、この耕作放棄地問題等を、作物の栽培ではなくエミューの放牧により解消していきたいと考えました。そのため、飼育したエミューの肉や脂肪から抽出したオイル等を使った六次産品の商品化を生産振興と同時に行い、農家の所得向上と地域の活性化を目指します。

ここに基山町の「ふるさと名物応援宣言」をいたします。

ふるさと名物の内容ともう一つ考えていること



1

地域資源
エミュー

◆オーストラリア原産の大型鳥「エミュー」

エミューは、オーストラリア原産の大型の鳥で、頭長約1.8m、体重約50kgに達し、性格は温順で、環境への順応性が高く、飼いやすい動物です。

生産物の肉は、低脂質・低カロリーで豚肉の約4倍の鉄分を含み、脂肪から取れるエミューオイルは皮膚浸透性が高く、抗炎症効果、酸化防止の効果があります。さらには、皮は皮革製品に、羽や卵殻はアクセサリーや工芸品などでの商品開発が期待できるなど、余すところなく使える新たな畜産資源として活用が見込まれます。

基山町では、中山間地域の耕作放棄地解消に向けた対策と連動させ、地域資源として認定されたエミューの生産振興を図り、エミューを活用した商品開発を支援します。

2

ふるさと名物

◆エミュー肉・エミューオイル等を使用した商品群

エミューの肉・オイル等を使った商品群を基山町のふるさと名物とします。この度、エミューの肉を使った「エミューキーマカレー」を商品化しました。これを核として、地域の食品製造業者や飲食店と連携し多様な商品開発による活性化と町への誘客に繋がります。また、エミューオイルは、その効能等からシャンプー・石鹸、スキンケア商品等への展開を行います。エミューの羽根は、2本の羽毛が合わさって一本の羽軸から伸びている珍しい羽根です。基山町の観光の地域資源である大興善寺は「契山・恋人の聖地」として認定されていることから、連携したアクセサリー等の商品開発を行います。深緑色のエミューの卵は、アクセサリー・工芸品にするなど多種多様な商品群の開発を行います。

3

耕作放棄地
・ 獣害対策

◆エミュー放牧による耕地の保全と獣害対策

基山町の農業も後継者不足や鳥獣害による被害から、中山間地域において耕作放棄地が拡大しています。このような耕作条件が悪い土地にエミューを放牧し、草を啄み、土地を走り回ることによって草の繁茂を防ぎ、耕作可能な状態で土地を維持していくためエミュー放牧に取り組みます。

また、イノシシ等への忌避効果が見込まれることから、その実証実験を行っており、忌避効果が実証できれば周辺農地へ大豆・そばなど換金性が高く六次産業化に繋がる農作物へ転換していきたいと考えています。



基山町の取り組み「オール基山でまちづくり」



1

基山町産業 振興協議会

◆ 業種を超えた連携で産業振興・地方創生事業の実行団体

基山町では本年4月、「オール基山でまちづくり」をするため、農林業、商業、製造業、観光業、サービス業等の事業者と役場が業種を越え「基山町産業振興協議会」を設立しました。この協議会は、参画メンバーはリスクを取って参加すること基本に、自らの収益の拡大により町の産業振興を図ること目的としています。業種を超えた連携によって、新たな特産品やコラボ商品の開発、販売方法等の改善を行います。さらには、町内外で開催されるイベント等に協働で参加し、販路の拡大と基山町の情報発信を行っています。また、地方創生事業の実行団体として、基山町独自の支援策に取り組んでいます。

2

基山町独自の 支援策

◆ 生産振興と商品開発・多様な販路の構築で六次産業化の推進

産業振興協議会では、六次産業化の推進に取り組んでおり、エミューを含め基山町内の素材を使った六次商品の開発を支援しています。また、九州自動車道基山PAに町として「ふるさと名物市場」を開設し運営する事業、小規模事業者でも安価に参加できる通販システムを構築する事業、健康に特化し買い物弱者対策も視野に入れた宅配システムを構築する事業、4月から町で開始したふるさと納税に提供する商品・事業者を拡充するための事業に取り組んでいます。それぞれ事業者と協働しながら、新たに多様な販路を構築することで、農産物・特産品の振興と商品開発を支援しています。さらには、町内外で開催されるイベントへの出店支援を行い各事業者の顧客・販路拡大を支援しています。

3

ブランディング プロジェクト

◆ ふるさと名物・特産品で、まちの活気とうるおいの創出

基山町のモノに限らず、体験やステータスなどあらゆる分野で地域ブランドを確立し、発信力のある基山を育てる「基山ブランディングプロジェクト」を進めています。産業分野では、ふるさと名物・特産品の応援団（消費者）づくりのため、これらの商品を識別するための統一したシールを貼付する取り組みを行います。また、基山町イメージキャラクター「きやまん」の産業分野での活用を促進し、イメージ戦略と一体となったブランディングを行います。

こんな基山町の取り組みを どうぞよろしくお願ひします

